

## 欧州主要国における著作権法制とデジタル図書館調査

### 調査の目的

欧州主要国における著作権法制の最新動向及びデジタル著作権管理（DRM）技術研究の方向性を概観するとともに、特に英仏の国立図書館で進められている活字及び視聴覚資料のデジタル化作業の現状及び今後の見通しを把握し、欧州において、公共知識のオンライン化という観点から DRM 技術研究や検索技術研究に期待されている意味・意義を考察する。

### 調査機関、調査方法

調査目的に係る公開情報の収集・整理を効果的に行うため、これらの事務をフランスで設立されている調査機関に委託して調査を実施した。

### 報告書の内容

欧州において、デジタル時代の著作権を巡る問題は、今まさに変革期を迎えているが、既得権益や現状法制に囚われず、広く関係者の意見を聞きながら、着実に改革を進められている。

まず、著作物の不法コピーの制御等の著作権制度を巡る政策面での論議と、それに相関して実施されている研究開発活動の動向について概観する。特に、パイロット的な要素が期待される音楽コンテンツの動向に注目する。

さらに、具体的な取り組みとして、欧州の豊かな文化的・科学的資料を保存しようとする「欧州デジタル図書館計画」の動きを取り扱い、著作権処理の問題のほか、多言語対応の検索技術など様々な課題や実現にむけた取り組みを詳述する。

2009年2月20日

NICT パリ事務所